

マルケシゲンゴロウ

Hydrovatus subtilis Sharp

コウチュウ目ゲンゴロウ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

国カテゴリー なし

選定理由

全国的に局所的な分布を示し、生息環境は限られ、個体数も少ない。県内の生息地も局所的で2箇所のみである。

形態

体長2.4~2.7mmで小型。体型は幅広い卵形をしており、背面、腹面ともに、黄赤褐色である。背面を微細な点刻と網目状の印刻が覆う。同属のコマルケシゲンゴロウは体長がより小さく、やや体形が細く、背面の光沢がより強く、点刻と網目状印刻の形状が異なる。

国内分布

福島県以南の本州、四国、九州、南西諸島に分布するが、生息地は局所的で個体数も少ない。

県内分布

加賀市片野鴨池の記録が唯一であったが、2007年に加賀市南部の植生の豊富な放棄水田で発見された。

生態

成虫は6~9月に確認されている。灯火に飛来する。

生息地の条件

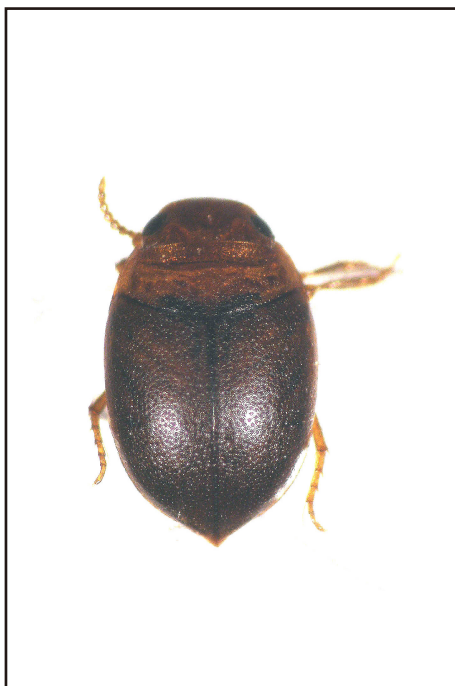
抽水植物などの水生植物の豊富な、池沼、湿地、放棄水田に生息する。池沼では岸边付近の浅く、植生の豊富な場所に生息する。

生存の危機

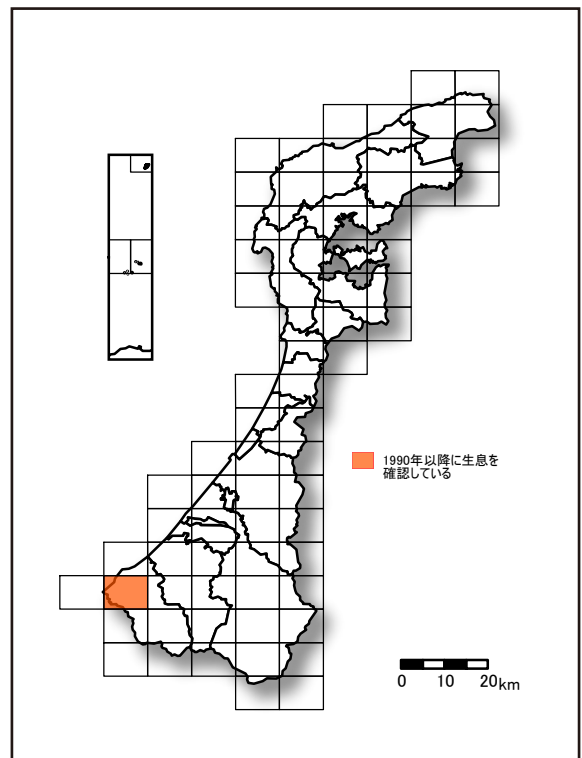
生息湿地の開発改修による消失や植生遷移、外来種の侵入が脅威となっている。片野鴨池では1996年8月にライトトラップで多数が採集されたが、その後の生息状況は不明である。加賀市南部の生息地にはウシガエルが侵入しているため、早期の駆除およびモニタリングの継続が必要である。(A, B)

参考文献

大桃定洋・佐藤光一 1991. マルケシゲンゴロウを栃木県で採集. 月刊むし, (250) : 8.
北野 忠・北山 昭 2000. 新潟県でマルケシゲンゴロウを採集. 月刊むし, (308) : 5-6.
林 成多 2007. 島根県産水生甲虫類の分布と生態. ホシザキグリーン財団研究報告, (10) : 77-113.



標本提供者: 富沢章



県内の分布